

## 「鳴瀬川流域水道水源特定保全地域指定」について

### 1. 水道水源特定保全地域とは

「ふるさと宮城の水循環保全条例」(平成17年1月1日施行)第13条第1項に基づき、山間部の水道水源となる地域のうち特に重要と認められる区域を水道水源特定保全地域として指定



地域内の開発行為に対し届出を義務付け、必要に応じて適切な指導を行うことで良好な水循環の保全を図る

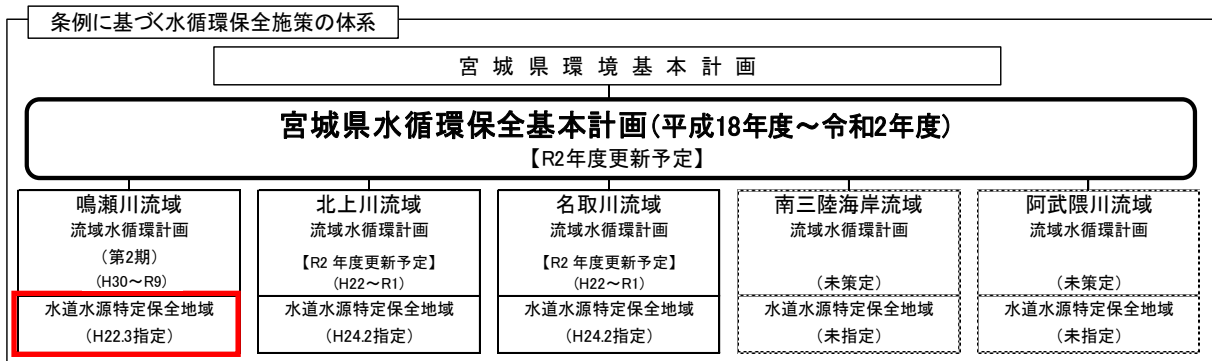
「ふるさと宮城の水循環保全条例」(抜粋)

宮城県条例第四十二号

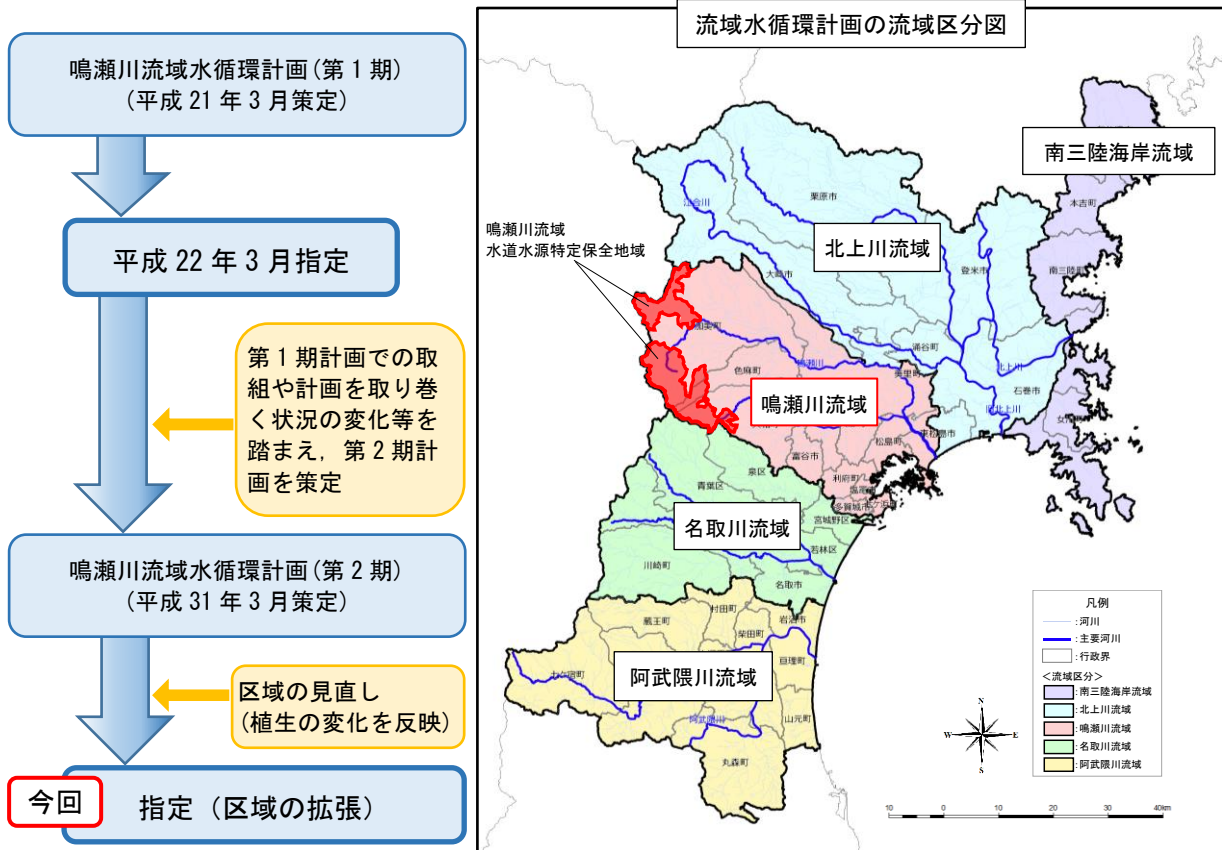
(水道水源特定保全地域)

第十三条 知事は、前条の流域水循環計画に基づいて、山間部の水道水源地域のうち、その地域の良好な水環境の保全を図る上で特に重要と認められる区域を水道水源特定保全地域として指定することができる。

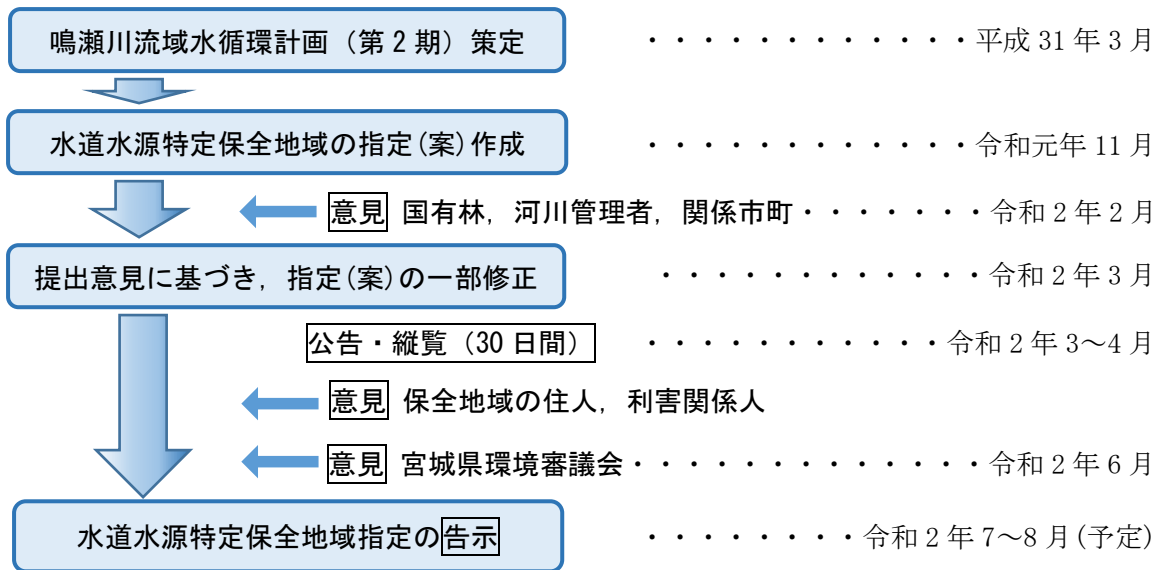
2 知事は、水道水源特定保全地域の指定をしようとするときは、あらかじめ、関係する国有林野の管理者、河川管理者及び関係市町村並びに宮城県環境審議会の意見を聴かななければならない。



### 2. 鳴瀬川流域水道水源特定保全地域について

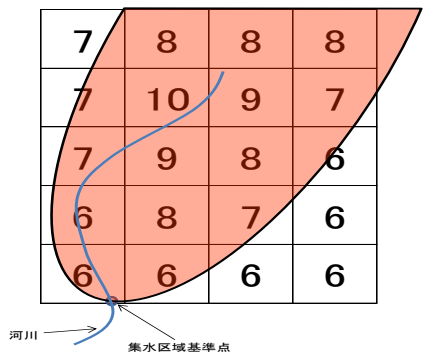
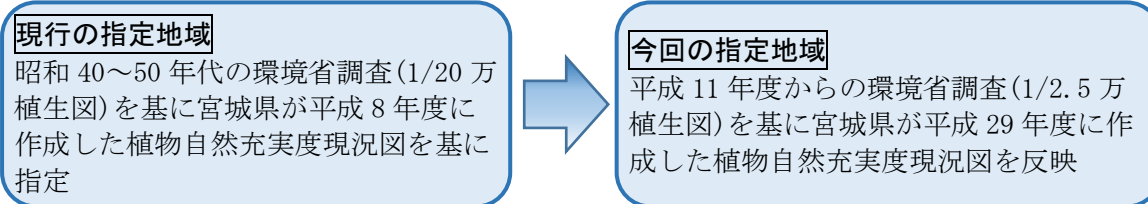


### 3. 指定の流れ



### 4. 区域指定の考え方

県内を1kmメッシュ毎に10段階に区分した「植物自然充実度」を基に、水源涵養機能が高い天然林、もしくはそれに近い森林（指標8~10相当）を含むメッシュを集水区域に沿ってスムージングした区域を指定

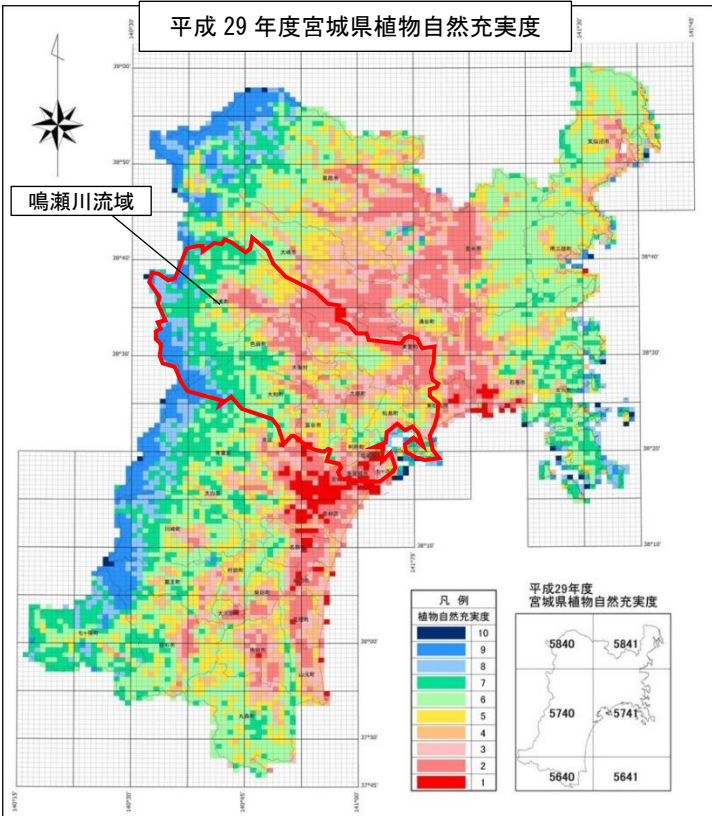


**【植物自然充実度指標】**

10: 沿岸地帯から高山帯までの県土全域にみられる自然植生で、特殊な厳しい環境に成立する群落（雪田植物群落、自然湖沼に生育する水生植物群落など）

9: 沿岸地帯から高山帯までの県土全域にみられる自然植生で、その地域の極相に相当する植生（ハイマツ低木林、アオモリドマツ林、ブナ林など）

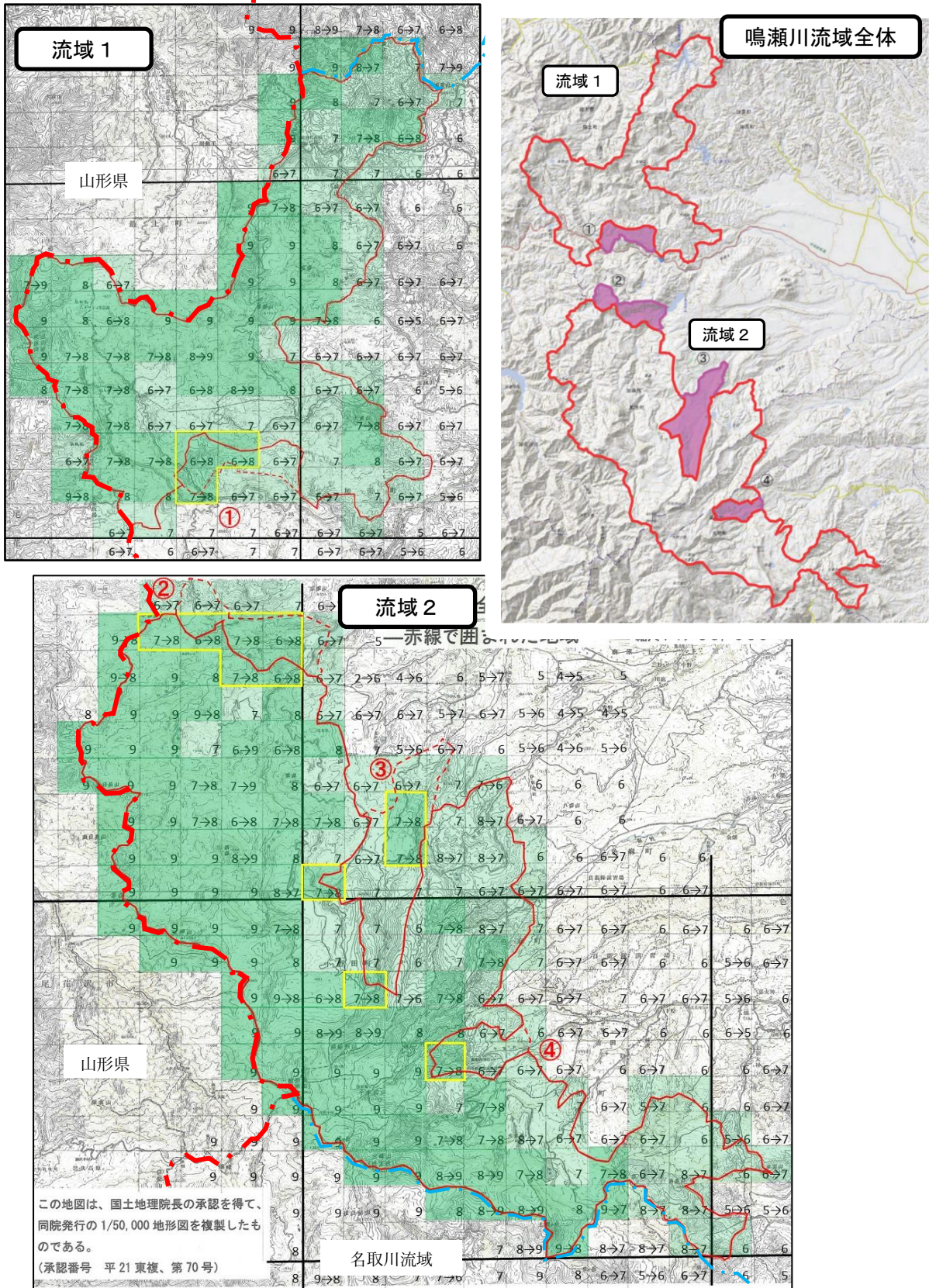
8: 沿岸地帯から高山帯までの県土全域にみられる自然植生が破壊された跡に成立した植生で、比較的人為の影響が少なく組成が自然植生に類似する植生（タブノキ二次林、モミ二次林、イヌブナ二次林、定期的に干されるため池に成立する水生植物群落）





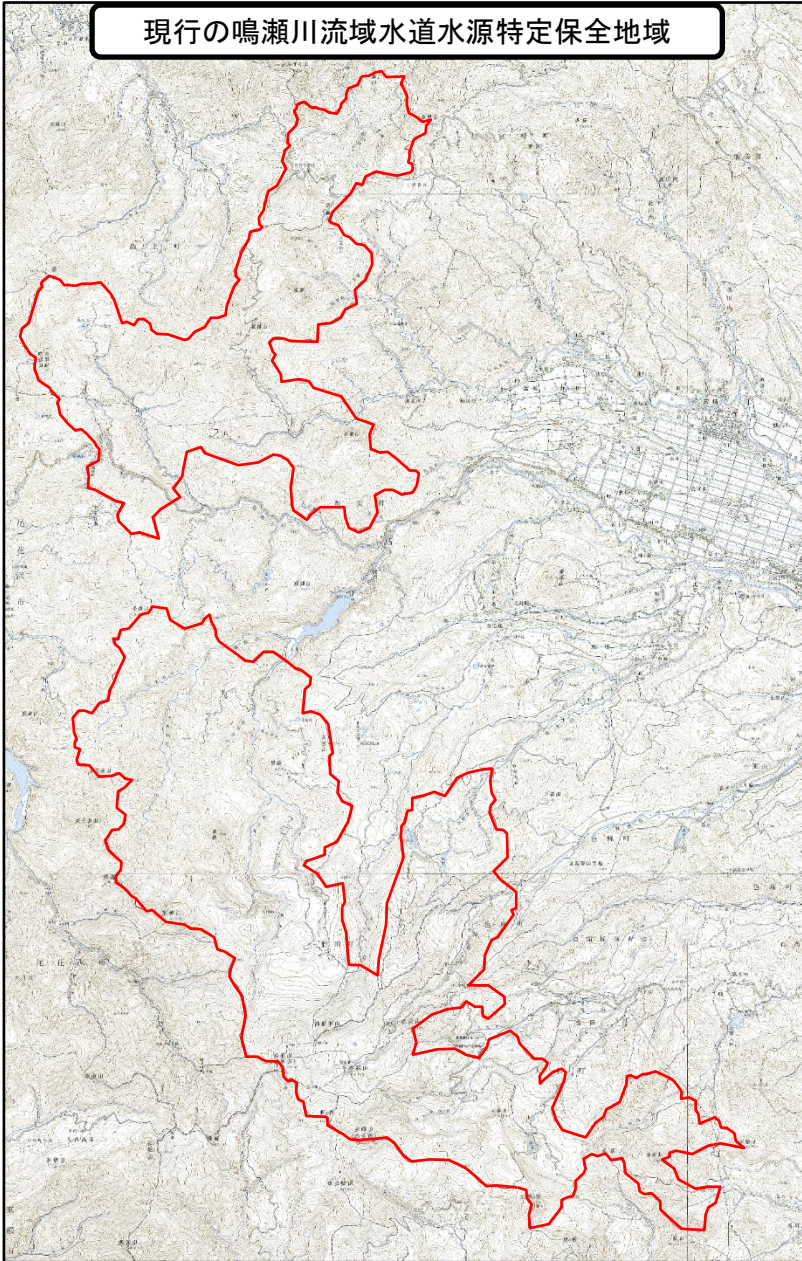
## 5. 指定地域

現行の水道水源特定保全地域外で、植物自然充実度が8未満から8以上に变化した区域を新たに保全地域として拡張する (①②③④区域)

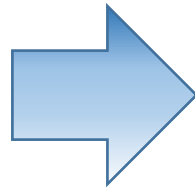




現行の鳴瀬川流域水道水源特定保全地域



区域を拡張



拡張後の鳴瀬川流域水道水源特定保全地域

